■「観光たかさき」冬号（第125号）■平成26年1月1日発行 ■(一社)高崎観光協会／高崎市八島町32-2（岩崎ビル2階）■TEL.027-330-5333 ■http://www.takasaki-kankoukyoukai.or.jp

KANKOU TAKASAKI

観光たかさき

2014 WINTER 冬号 VOL.125

Encounter

野鳥に出会う 達磨さんと観音さま

癒しの丘陵で今年の幸せをいただく

高崎の観光再発見

山口 薫―詩情豊かな画風で戦後の画壇を牽引

観音山野鳥の森「メジロ」

達磨さんと観音さま
癒しの丘陵で今年の幸せをいただく

高崎市街地から頂上まで約一里の道のり。観音山は平安時代初期に建立された清水寺に千手観音が祀られたことからその名がつき、地域の観音信仰の聖地となりました。また、江戸時代前期に禅宗の初祖達磨大師の像が安置されて少林山達磨寺が開創され、七転八起、面壁九年の不屈の精神を表わす縁起だるまは宗派を越えて広く慕われ信仰されてきました。こうして観音山丘陵は、達磨さんと観音さまのご慈悲やご利益あふれるパワースポットとして今も親しまれています。

空気が澄む冬季の眺望絶佳とバードハウスの餌場などを訪れる野鳥の観察を楽しみながら、一年の幸せをいただきに訪れてみませんか？

■白衣大観音の誕生

高崎のシンボルともいえる白衣大観音は、高崎の実業家・井上保三郎氏によって昭和11年に建立されました。井上氏は昭和9年に挙行された陸軍特別大演習の際に昭和天皇に単独拝謁の栄誉を受けたことを契機に、日頃信仰していた白衣観音像を建立し、陸軍十五連隊戦死者の慰霊をし、それが観音山観光開発の第一歩となりました。

当時東洋一の高さといわれた41・8メートルの白衣大観音。高野山管長高岡隆心大僧正以下百余人の僧侶により開眼式がとり行われ、昭和16年には大観音を護持する寺院として、別格本山高野山慈眼院が観音山に勧請され入仏式が行われました。

COLUMN コラム

窓からの眺望とふわふわサンドイッチが魅力 懐かしの喫茶店

お店の小金澤正樹さん＆由香さんご夫婦

観音山市営駐車場の隣にある1974年（昭和49）オープンの喫茶店。サンドイッチのおいしい店として知る人ぞ知る存在。扉を開けると時間が止まったような懐かしい空間があります。季節ごとに変わる木々の表情と、梢越しに広がる高崎市街地を望める窓辺が特等席。40年近く淡々と丁寧に作り続けてきたピザやプリンもおススメです。

■コーヒーショップKEYNES（ケインズ）
住所：高崎市石原町2398-15
TEL：027-326-4162
営業時間：10時30分～17時30分（LO17時）木曜定休

■観音山市営駐車場 ▲
営業時間：9時～17時
駐車料金：普通車 420円（1回）

■高野山真言宗 高崎白衣大観音 慈眼院
住所：高崎市石原町観音山
TEL：027-322-2269

■観音茶屋
住所：高崎市石原町 2709
TEL：027-323-7700
営業時間：10時～16時　水曜定休
（観音最中は10個入り800円）
※観音山の観光ガイドを申し込みたい場合は、同店が窓口です。（要予約）

■眺望絶佳、高崎駅から一里の距離

白衣大観音へは、高崎駅西口からシンフォニーロードを通って、烏川に架かる和田橋を渡り、突き当たりの護国神社の鳥居を通り過ぎたところの三叉路を左に折れます。ここが「羽衣線」で、つづら折りに登って行くと頂上の観音山市営駐車場に到着。また、駅西口から観音通りを通って聖石橋を渡り、清水寺の石段の手前を左折という「羽衣線」を東側から登る道もあり、遊園地が開業していた頃は、こちらの通りのほうが賑やかでした。

観音山市営駐車場からの眺めはまさに「眺望絶佳」で、高崎の街並みだけでなく、前橋市街や赤城山、榛名山、日光連山、谷川岳、晴れて澄んだ空気が澄んだ日は、東の果てに筑波山も望めます。空気の澄む冬季は夜景の美しさも格別です。

市街地から約一里（4km）程の距離、車で10数分のところに、四季折々の表情を豊かに映し、小鳥の賑やかなさえずりが聞こえる自然豊かな観音山公園が広がっています。

■参道に響くもてなしの声

頂上の市営駐車場に描かれた大きな足跡が示す方向に白衣大観音に続く参道があります。シャッターの降りた店もあり、かつての賑わいとは隔世の感がありますが、土産物・休憩処が軒をつらねる参道のそぞろ歩きに、観光気分が盛り上がります。

「いってらっしゃいませ～」と訪れる人たちに参道一の元気な声かけをしているのは、『観音茶屋』の店長中川一美さん。同店は井上保三郎氏の勧めで、街中にある和菓子屋『観音屋』の初代が土産・休憩所として開業したのが始まりで、昭和15年に慈眼院勧進のために山頂広場から現在の場所に店を移したという老舗です。観音様をかたどった「観音最中」が人気商品で、小豆とゴマ餡の二種類があります。「自分の治したい所から食べ、観音様からご慈悲をいただくと言われています」と教えてもらい、お茶と一緒にいただくと、良質な甘さが口の中に広がります。

■恋愛成就のパワースポット

白衣大観音を間近で見上げると、そのふくよかなお顔から慈愛の心が降り注いでくるようで、やさしい気持ちに満たされます。息災・安産・子育ての仏様ですが、何を願ってもよいそうです。

観音様の胎内に入り、出るときは新たな自分に生まれ変わるという「胎内巡り」は、新年のスタートにふさわしいかもしれません。体内は九階で階段数は一四六段、二十体の仏像が安置されています。展望窓からは関東平野、上毛三山、浅間山、信州の山並などが一望でき、清々しい気分になれます。

胎内巡りの出口は観音像の背後にあり、ここを出ると「光音堂」という六角形のお堂があります。本尊聖観音は別名「一願観音」といい、願い事を一つだけかなえてくれる観音様です。特に縁結びにご利益があり、

■高崎白衣大観音　胎内拝観
時間：11月～2月　9時～16時30分
3月～10月 9時～17時
料金：高校生以上300円、中学生以下100円

毎年バレンタインデーからホワイトデーの一ヶ月間開催される「赤い糸祈願祭」は、この光音堂の観音様と白衣大観音のご利益にあやかるもの。光音堂の観音様の小指に結ばれた赤い糸は、白衣大観音の肩を通ってその小指に結ばれ、正面足元まで垂れ下がっています。その赤い糸の先を自分の小指に絡ませて願うと良縁に恵まれ、カップルならさらに仲が深まるといいます。

クロジ

エナガ

■観音山野鳥の森バードハウス
開館日時：土・日・祝日のみ　10時～15時
日本野鳥の会高崎支部による運営
※隣接する野鳥の森は一巡り約40分。アップダウンに富んだ自然のままの森。

■冬の観音山はバードウォッチングで癒される

観音山は様々な野鳥が生息する場所でもあります。どこにいても鳥のさえずりが聞こえ、「野鳥通り」や「野鳥の森」の看板が目にとまります。木々の葉が落ちる冬季は、バードウォッチングを楽しむのに最適な季節。白衣大観音の正面左側の小道を進み突き当たりを右に少し下ったところにある「観音山野鳥の森バードハウス」では、日本野鳥の会高崎支部の人たちが、12月～3月末まで餌を置き、ガラス越し1.5mの距離に様々な野鳥を観察できます。

小麦粉、砂糖、蜂蜜、ラードをこねマツボックリを芯にして固めたバードケーキをはじめ、牛脂やヒマワリの種、雑穀などを目当てに、エナガやメジロ、ヤマガラ、シジュウカラなどがやってきます。「スズメ目ホオジロ科のクロジという鳥は、近年世界的に観察されることが少ないのですが、ここでは12月から3月頃まで見ることができます」と、注目したい野鳥もいます。

もうひとつ、素敵な空間でお茶をしながらバードウォッチングも楽しめるとっておきの場所として、慈眼院内の『一路堂カフェ』があります。境内の東側の木戸をくぐって坂を下った木立の中の隠れ家のようにたたずむ一路堂。大きな窓を隔てて木々の息吹が感じられ、BGMと勘違いされるほどの小鳥のさえずりが店内まで届きます。餌台にやってくる野鳥たち。日常の喧騒から離れて過ごすティータイムは、至福のひと時となること間違いなしです。

カフェの橋爪真理子さんと真弥子さん姉妹

■一路堂 CAFE（高崎白衣大観音慈眼院内）
住所：高崎市石原町2710-1　TEL：027-322-2269
営業時間 10時～16時30分
※正式オープンは2月1日から。それまでの営業日は慈眼院ホームページをご覧ください。

■観音山丘陵の西へ。高崎だるま発祥の寺

白衣大観音がたたずむ観音山から北西の位置3.5kmほどの距離に、高崎だるま発祥の寺として知られる少林山達磨寺があります。観音山から護国神社を過ぎて三つ目の信号「消防署南」の交差点を左折し、4kmほど車を走らせると到着します。

正月6日、7日の両日には、一年の福を求めて多くの参拝客が訪れる『七草大祭だるま市』が開かれ、高崎を代表する風物詩となっています。

少林山達磨寺は、延宝年間（1673～1681）にこの地を訪れた一了（いちりょう）行者が大洪水で流れてきた大木で達磨大師の像を彫ってお堂に安置したのが起

■達磨寺 霊符堂（本堂）
北極星と北斗七星を神格化した星神「北辰鎮宅霊符尊」を祀り、方位除けをするお堂

洗心亭

◀鐘楼

こりとされています。元禄10年（1696）厩橋城（前橋城）主の酒井公が水戸光圀公に願い出て、中国僧心越禅師を迎え、禅の道場として開かれました。

230年ほど前に起こった天明の大飢饉の後、農民救済のため九代東嶽和尚が心越禅師の描いた達磨大師の図を手本に木型を作り、農家の副業に張り子だるまを作らせました。それを七草大祭で売らせたところ評判になり〝縁起だるまの少林山〟と言われるようになりました。

■少林山達磨寺
住所：高崎市鼻高町296
TEL：027-322-8800

▲観音堂

■石段を上り霊符堂（本堂）、そして観音堂へ

達磨寺の総門をくぐり、一六六段の長い石段を見上げた時の光景は、何とも言えない厳粛な雰囲気があります。途中で見上げると、鐘楼が浮いて見えます。鐘楼をくぐって右側の瑞雲閣には寺務所とお札場、左側に企業の禅研修などを行う大講堂があり、その前には「初市や紐たして背負う大達磨 夜荘」という達磨寺らしい句碑があります。

霊符堂（本堂）は、境内中段から石段を六七段上ったところにあり、お炊き上げ供養のために納められただるまが積み上げられています。その東の端には「冬麗の街ひき寄せて赤城聳つ」と刻まれた句碑があり、視線を上げて見渡すと、しみじみと旬を味わうことができます。

また、霊符堂の西側、階段を下りたところの観音堂は、明治の大火を免れた少林山最古の建造物。風雪に耐えてきたそのたたずまいは周囲の風景に溶け込んでいます。十一面観世音が本尊として安置され、厄除け・安産・子授けにご利益があることで知られています。

■タウトの「思惟の径」をたどり境内の自然を感じる

達磨寺はなんといっても野趣に富んだ味わいのある境内、特に小径の散策が楽しいところです。また、境内には、石室の正面を向けて「薬師如来石座像」が安置されている薬師塚古墳をはじめ、古墳も点在しています。

そして、世界的建築家ブルーノ・タウトが、ナチス政権から逃れて日本にやって来て、エリカ夫人と共に、2年3ヶ月滞在した「洗心亭」があります。

タウトは高崎市在住の実業家井上房一郎氏の知遇を得て、群馬県工業試験場高崎分場に赴任し、木工家具、漆工芸、竹工芸、竹皮細工などの指導を行いました。一方、日本の建築物や文化に触れ、数々の著作により日本文化を世界に紹介しました。

とがった大きな鼻、背の高い新来の異国人は、素朴な村人にとって奇異な存在となり、洗心亭の周りには人だかりが絶えなかったといいます。しかし、日を経るにしたがってタウトの散歩姿に村人も慣れ、時には農家の人がお茶に呼び入れてくれることなどもあったといい、村人たちと心を通わせた様子などが、タウトの日記に記されています。「方丈記」を読み、鴨長明と対座し、虫の声を観賞し、囲炉裏に座すなど、日本文化を理解しようと日常生活すべてを日本式にした教養人、タウト。

境内に案内板のある「タウトの思惟の径」をたどり、タウトの眼差しを感じながら、散策する楽しみは格別です。

COLUMN

おとぎ話にでてきそうな森のパン屋さん

少林山達磨寺の上の駐車場に向かう道の途中にある手作りの「森のパン屋さん」の看板。好奇心をそそられ、小径を進むと…全てが手作りといったたたずまいのかわいいパン屋さんがあります。「口から入るもので体はつくられる」と、良質な食物にこだわる荻野早苗さんのパンは、天然酵母を使用した無添加の生地を石窯に薪をくめて焼き上げたもの。香ばしくて噛むほどに素材のおいしさが口いっぱいに広がります。

■森のパン屋さん
住所：高崎市鼻高町313-1
TEL：027-325-0835
営業日：土・日のみ
営業時間：土曜日11時30分～
日曜日10時30分～
（売り切れ次第終了）

●01 EVENT

第20回 絵本原画展
「ましませつこ展 わらべうたの世界 やさしい声で はいどーぞ」

2/1（土）～2/11（火）
※会期中無休

●午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
●高崎シティギャラリー（第一展示室、予備室）
●入場料：一般前売り／600円（当日800円）
子ども前売り／400円（当日500円）

特別企画
■講演会
「あそびうたで子育て」わらべうた研究家 小林衛己子
「馬頭琴 演奏」馬頭琴 チ・ブルグット
●日時：**2月1日（土）** 午後2時より
●場所：高崎シティギャラリー コアホール
●入場料：前売り／1,000円（当日1,500円）
定員300名
●サイン会を予定

特別企画
■演奏会
「わらべうたとマジックとコンサート」
「青森県・秋田県・岩手県・群馬県のことばでわらべうた」
●日時：**2月2日（土）** 午後2時より
●場所：高崎シティギャラリー コアホール
●入場料：前売り／1,000円（当日1,500円）
定員300名

●お問い合わせ
ＮＰＯ法人 時をつむぐ会
〒370-0852 群馬県高崎市中居町4-31-17
TEL.027−352−4613
http://www3.ocn.ne.jp/~honnoie/

●02 梅祭り特集 EVENT

榛名の梅祭り ●3月16（日）

榛名地域は東日本一の梅の産地です。榛名梅林には「白加賀」を主として約12万本の梅が咲き誇り、甘い香りを放ちます。
観梅期間は例年2月下旬から3月下旬にかけて、梅の花の白で山々が覆われる景色を楽しんでください。
また、3月16日（日）には「榛名の梅祭り」が行われます。

榛名の梅祭り
●主会場：榛名文化会館（エコール）前庭
●開催時間：午前9時30分～午後3時30分
イベント内容
●梅製品の無料提供、販売 ●芸能ショー
●キャラクターショー ●その他ゲームやコンテスト
など梅の香りの広がる梅林で、一足早い春を満喫してください。

●お問い合わせ：榛名の梅祭り実行委員会
（高崎市榛名支所産業観光課）
TEL.027−374−5111

みさと梅祭り ●2月下旬から3月下旬

箕郷梅林は、榛名山南麓の丘陵300haに、約10万本の梅が栽培されています。そのほとんどが、実を収穫するために管理されている生産梅林です。5月下旬から7月上旬にかけて、たわわに実った新鮮な梅が収穫され、本市は東日本一の梅の生産量を誇っています。
2月下旬から3月下旬にかけては、この梅が一斉に花を咲かせ、丘陵一面に純白の絨毯を敷き詰めたような景色が広がります。一度は見ておきたい高崎の絶景ポイントのひとつです。
また、梅の開花に合わせて、「みさと梅まつり」が開催され、特産の「梅」を使った様々な加工品を販売する売店も出店しますので、お気に入りの「梅」を見つけてみてはいかがでしょうか。そのほかにも土日を中心に各種イベントも予定されており、毎年大勢の観光客で賑わっています。雄大な景色と甘酸っぱい香りに包まれながら、家族そろって一足早い春の訪れを感じることができます。

駐車料金：普通車／300円 大型車／1,000円

●お問い合わせ：箕郷支所産業課
TEL.027−371−9065

●03 EVENT

上野三碑一般公開

3/9（日）
3/16（日）

高崎市山名町にある山上碑、金井沢碑、そして同市吉井町にある多胡碑の一般公開が、3月9日、3月16日の2日間行われます。いずれの碑も特別史跡に指定されており、人々から「上野三碑」と総称され、古代史上の重要な遺跡として注目されてきました。それぞれの碑は、通常は建物内に保管されていますが、一般公開では建物内で実物を間近に見ることができます。
両日ともに多胡碑記念館は入館無料、館内では書道展が開催され、9日には多胡碑のある吉井いしぶみの里公園で地元主催のイベントが開催される予定です。詳しい日程をご確認のうえ、是非お出かけください。なお、2月下旬には三碑の鑑賞講座も開催します。

●お問い合わせ：文化財保護課 **TEL.027−321−1292** 多胡碑記念館 **TEL.027−387−4928**

●04 FESTIVAL

第28回 高崎映画祭

3/22（土）～4/6（日）

会場
●高崎市文化会館
●高崎シティギャラリー
●シネマテークたかさき

国内で一年間に劇場公開される映画は邦画・洋画合わせて約800本。そのうちに地方で日常的に観られる作品数には限りがあります。まだ観ぬ映画との出会いの場を作ることが高崎映画祭のコンセプトです。今回も多種多様な映画を取り揃えます。また、期間中には授賞式やトークイベントはもちろんのこと、高崎の街を楽しむ多彩な企画が盛りだくさん。映画のまち・高崎を大いに楽しむ16日間です。

●お問い合わせ：
高崎映画祭事務局 高崎市あら町202番地
TEL.027−326−2206
http://takasaki.film.gunma.jp/

高崎市の冬のイベント

EVENT

七草大祭だるま市

●05

1/6・7（月）（火）

●日時：平成26年1月6日（月）正午頃から
1月7日（火）昼頃まで　※6日の晩は夜通し
●場所：群馬県高崎市鼻高町296番地　少林山達磨寺
●アクセス：電　車：JR信越本線（高崎駅～群馬八幡駅）
バ　ス：群馬バス（高崎駅西口～少林山バス停）
タクシー：JR高崎駅～少林山達磨寺
（定額料金にて運行）

※だるま市当日、少林山周辺は交通規制が行われます。大変込み合いますので、公共交通機関・タクシーでお出かけください。

毎年、正月6日と7日の両日に少林山達磨寺では、『だるま市』が盛大に開かれています。

だるま市は、本堂に祀られた『北辰鎮宅霊符尊』の縁日に行われる、星まつりに起源があります。

この本尊様は北極星と北斗七星を神格化した方位除けの霊神で、星の輝きの強い丑の刻（午前2時ころ）が一番御利益のある時間とされています。

古くから行われていた星のお祭『七草大祭』に『だるま市』が同時に行われるようになり、現在のだるま市へと変化してきました。正式には『七草大祭だるま市』といいます。

上毛カルタの絵札にも、だるまと北斗七星が描かれているように、夜が賑やかなお祭りです。大小さまざまな『高崎だるま』が売り子の威勢のよい掛け声とともに、一年の福を求めてくる参拝客に買われていきます。

高崎だるまの眉は鶴、鼻から口髭は亀を表しており、その縁起の良さから福だるまとも呼ばれています。

高崎だるまは、群馬県第一号の地域ブランドとして群馬県のみならず、全国的に知られています。

●お問い合わせ：少林山達磨寺 TEL.027-322-8800　（一社）高崎観光協会 TEL.027-330-5333

EVENT

1月～3月の主な開催イベント

●06

1月 8日	福だるま市（新町）
1月10日	初琴平（新後閑町）
1月13日	八幡の鳥追い（八幡町）
1月 中旬	どんど焼き（各町）
1月15日	強者弓始式（棟高町）
	北向道祖神大祭（倉賀野町）
1月16日	水沼夜観音縁日（倉渕町）
1月18日	柳原馬頭観音だるま市（南大類町）
1月28日	室田滝不動尊大祭（中室田町）
2月上旬～3月3日	新町ひなまつり（新町）
2月 3日	節分祭（各町）
2月 9日	第14回多胡碑マラソン大会（吉井町）
2月15日	榛名神社御神楽始（榛名山町）
3月 9日	第23回 TAKASAKICITY はるな梅マラソン（上里見町）
3月16日	オリエンテーリング高崎大会（観音山）
3月18日	柳原馬頭観音縁日（南大類町）
3月19日	御嶽教による火渡祭（貝沢町）
3月30日	カタクリ咲いたまつり（吉井町）
	春季例大祭 諏訪神社（金古町）

●お問い合わせ：（一社）高崎観光協会　TEL.027-330-5333

開運たかさき食堂「ふるさと祭り東京2014」へ出展

●07

1/10～19（金）（日）

●会場：東京ドーム
●入場料：前売り 1,300円
当　日 1,500円

高崎観光協会では、高崎観音山や縁起だるまに象徴される「縁起のいいまち高崎」の食文化を伝えるため『開運たかさき食堂』として多くの事業を展開しています。

この度、東京ドームで開催される「ふるさと祭り東京2014」に初出展することが決定しました。期間中、40万人とも予想されている大勢の来場者に、高崎のグルメやイベントなどを精一杯PRしたいと考えています。

「ふるさと祭り東京」は全国各地に根付いたお祭りや故郷の味が一堂に集う、日本有数の祭典です。皆様もぜひ、足をお運びください。

●お問い合わせ：（一社）高崎観光協会　TEL.027-330-5333

ようこそ高崎 人情市

●08

平成26年1月26日（日）（午前8時～午後3時）　※会場：もてなし広場
平成26年2月23日（日）（午前8時～午後3時）　※会場：もてなし広場
平成26年3月23日（日）（午前8時～午後3時）　※会場：もてなし広場

●お問い合わせ：事務局 NPO法人高崎やる気堂（高崎市剣崎町1348-1）
TEL 027-343-5130　FAX 027-340-7067　http://ninjou.gunmablog.net/

明治～昭和

「詩魂の画家」

山口薫の原風景

■油彩「観音の立つ山」
（1959年 キャンバス 31.8×40.9cm）

山口 薫（1907～1968）
Kaoru YAMAGUCHI

詩情豊かな画風で戦後の画壇を牽引

●郷土は熱く私を育む

「背に榛名の山々が六曲一双の屏風にひとつひとつはめこまれるようにポコンポコンと並んでいる。その裾の丘陵のひとつに私は生まれた」。山口薫は明治40年（1907）8月に高崎市箕郷町（旧群馬郡箕輪村）の旧家に誕生した。旧制高崎中学に入学し、穏やかで純粋な人柄の秀才だったという。少年時代から豊かで詩的な感性に恵まれ、中学2年の時に、姉に油絵の具を買ってもらった。「試験がすんだら油絵をうんと描こうと思う。急に絵が書きたくなった」と絵に熱中し、写生によく出かけていた。

「私が愛する故郷。こうした題を出されたら一巻の書物くらいはたちまち書いて終いそうだ。（略）郷土は熱く私を育む」と山口は故郷への思いを記している。

「観音の立つ山」の景観
高崎公園あたりから見た観音山丘陵のシルエットと、城南球場のあたりから見た白衣観音のシルエットが渾然一体となったと思われる。

●僕は詩人なのだ

高崎中学校を卒業後、山口は東京美術学校（現東京藝術大学）に入学し、在学中から帝展などに出品し入選していた。卒業後は渡欧し、セザンヌやピカソなどの作品から、近代絵画の造形思考を吸収した。前衛的な美術の発表の場を求め、自由美術家協会、モダンアート協会を結成し画壇に大きな影響を与えた。山口は国内外で高い評価を受け、東京藝術大学に迎えられる。

山口は29歳の時に挫折し、憔悴の底に沈み帰郷するが、故郷の友人や後輩の画家松本忠義らは暖かく迎え、再び山口に画筆を持たせた。戦前、絵が売れない時代の山口を支えたのも井上房一郎氏など高崎の理解者だったようだ。

1955年、山口は旧高崎市役所の玄関ロビーに幅6・56mの大作「朝昼晩」を描き、現在は高崎シティギャラリーに移設、展示されている。「僕は詩人なのだ」「詩が僕を支えてくれる」と山口自身が語るように、その作品は詩情的、幻想的で深い精神性を表現している。

●「観音の立つ山」

故郷高崎は、山口芸術のモチーフの一つになっているが、山口が高崎市のシンボル「白衣観音」を山口独特の叙情あふれる抽象表現でとらえた作品が残っている。この「観音の立つ山」は高崎市美術館に収蔵され、高崎公園あたりから見た観音山丘陵のシルエットと、城南球場のあたりから見た白衣観音のシルエットが渾然一体となった、現実には存在しない風景といえる。高崎市美術館は、「白衣観音の大きさから考えると、空を飛んでくる鳥たちの視点からとらえた光景かもしれません」と言う。

この作品が制作された1959年は、山口の画風に大きな変化が見られる時期で、風景や人物の描写はいっそう幻想性を増し、心の中に現れては消えるイメージという性質を強めていく。この観音の姿も、詩魂の画家と呼ばれた山口の望郷の思い、心象風景なのかもしれない。

「観光たかさき」冬号（第125号）平成26年1月1日発行　（一社）高崎観光協会／高崎市八島町32-2（岩崎ビル2階）TEL027-330-5333 ■制作／株式会社グラスロード社